

以原年申り可也  
力百十

異宗徒戸数人負

平戸中野村 十七戸 百四人

同 宝亀村 七十二戸 三百八十六人

同 奴指村 四十戸 二百三十五人

同 古田村 八戸 四十二人

同 黒嶋 百九十三戸 千二百六十六人

同 小値賀嶋内 八十戸 二百九十九人

合戸数四百十四軒

合人負二千三百三十二人

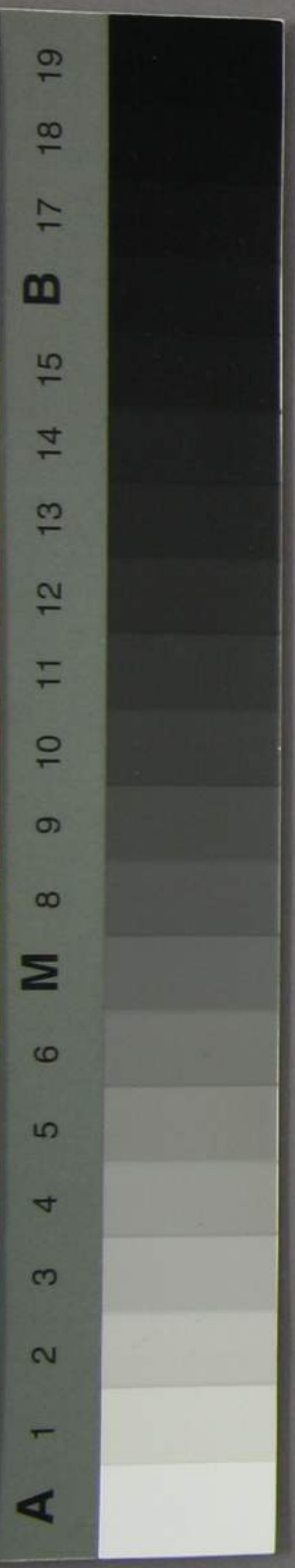
其他

大 大  
江 江  
一 一  
年 年  
四 四

藏 藏

小 蓋

平 戸





紫山村 一軒

下寺村 七軒

神崎村 九軒

こト子村 十七軒

一 右者公然ト改宗ヲ戸長ニ届出候分

委曲ニ別冊ノ通ニ候

一 五嶋ニ殊夥シク有之候ハ此ノ教人負未夕相分リ不申候

平戸嶋中野宝亀紐指木勝古田等ノ諸村ハ  
異宗徒雜居ノ地ニテ水火不相容事情切迫ノ状  
態筆紙ニ盡シカタク候其大畧左ニ

當地異宗徒ハ多ク五嶋大村浦上邊ヨリ来リ居  
付候者テ又ヨリ追々旧住ノ者ニモ傳傳致候初  
相秘候ハ近來ハ公然戸長ニ届出村民交際  
モ相絶シ神佛モ先祖ノ位牌等不殘燒捨父子兄  
弟丈婦ノ際モ其宗ニ不入者互ニ相殺絶致シ老父  
母トシテ其宗ニ不入者見棄別居致候且郷社  
村社例年定祭又ハ早飯ニ雨ヲ祈等々ノ神



佛、閏候儀、村中一統入費、毛一切不出、甚、手、  
言、信、毛、不、安、毛、三、候、或、毛、村、方、毛、三、段、毛、和、勸、候、人、  
強、情、申、張、或、毛、流、車、京、毛、所、免、和、成、候、事、也、  
村、民、毛、南、延、毛、公、許、和、成、候、人、縣、廳、毛、戶、長、毛、  
所、布、達、和、成、所、觸、毛、可、有、之、等、縣、廳、毛、所、布、告、  
毎、三、日、其、方、等、同、所、毛、所、布、達、和、成、候、哉、  
異、字、後、毛、縣、廳、官、員、毛、戶、長、孫、毛、因、毛、不、存、事、  
十、日、其、方、共、長、濟、天、主、堂、祭、師、毛、隨、右、所、趣、意、  
急、及、候、村、方、人、者、毛、早、毛、共、宗、毛、不、立、入、帶、如、何、  
様、所、免、有、之、毛、雜、計、日、平、天、子、孫、既、共、宗、

内、市、信、仰、遊、也、候、杯、申、或、天、照、皇、大、神、官、  
天、狗、杯、上、西、上、雜、言、申、候、村、民、益、増、激、致、  
去、壬、申、四、月、比、毛、屢、戶、長、少、頭、等、何、免、平、所、  
處、置、下、也、度、段、願、出、候、戶、長、等、毛、情、愈、々、  
其、心、如、何、出、村、民、毛、不、遠、所、處、置、可、有、之、尸、置、  
候、如、六、月、七、日、毛、三、候、毛、何、所、抄、括、毎、三、日、  
又、々、村、民、毛、願、出、候、毛、何、比、迄、毛、多、令、所、氣、置、毛、可、  
有、之、下、度、々、申、返、候、申、幾、度、毛、相、争、掛、候、如、戶、長、  
百、方、磨、磨、相、柳、候、當、春、毛、三、候、入、托、為、何、所、  
氣、令、元、氣、之、始、毛、異、字、後、毛、益、傲、然、相、争、戶、長、



始村民等々難茂致候所村民一同憤憤堪  
兼後來割渡し田畑引揚又い異宗徒追立  
し倫起り実い戸長毛持扱兼候所柄今般巡村  
致候所東京より官貢来り候由共常社何鬼手  
處置可有之様或い被存候或四月三日中野村  
所修礼危若男女影交參り諸有之矣了教導  
職長々復教致し相畢候し毛皆々退出不致  
其意相察候間危若又い事立之者呼出今般い  
良民正宗ノ者下共上心得違々之為復教相  
開中候社守之毛近寄り其者い官不啓致方より

其更地篤申見聞し上可然所處置相願候等  
候之所氣置有之追正宗ノ者より改て年出石致  
様若不條理ニ仕向致候之共い衆人ノ可相成且正宗  
ノ者い降昔り柳守り候社ノ正宗托良民托可留殿  
懇及復倫候如兼テ毎々戸長より下度如仰申  
諭有之候所一何程相侍候之毛所氣置無之  
付多村民共方向ニ迷い異宗徒益相駈り候  
被異宗徒ノ者村中毎月第力ノ暇ヲ費候  
三毛相知不申何卒速ニ所氣置仰付し度殿  
申出候所邊境事情速ニ是致兼候儀毛有之

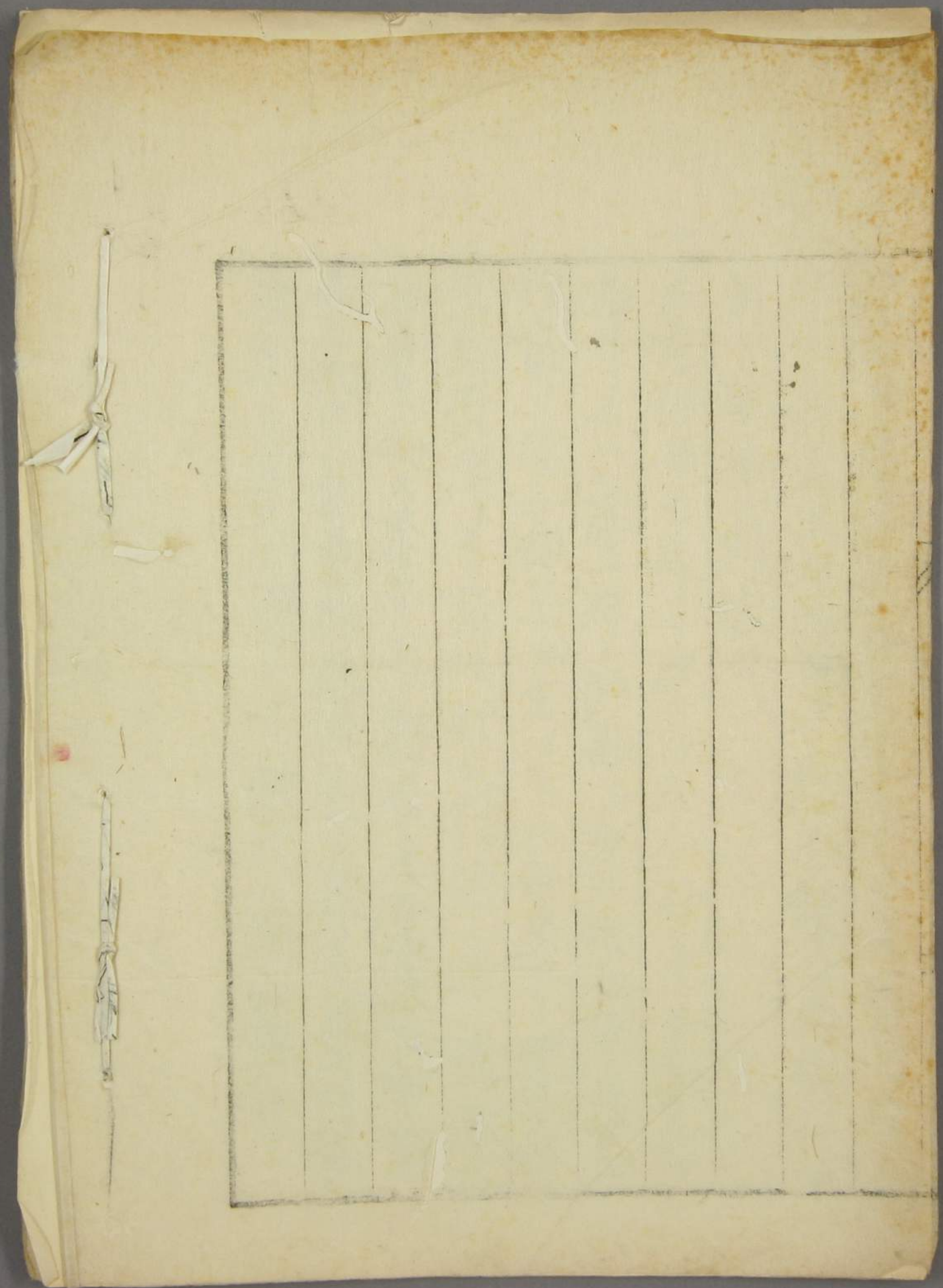


候如共度、早速車止書地、更及爲計申上  
早々所處置相預可申段又々、能切相預候如  
所々致安心引退候

一  
空龜御指本勝等、皆白標之、之毛、  
相定候、直ニ、神ノ騷働、相成可申候、  
村ニ、淋リ候知相事、者、千人餘、又、  
四席、刻  
復教役預、等致候然、  
高座下、ヨリ、高聲、之、私、  
大座、毛、  
神佛、  
御毛、大、  
切、  
不致、  
宗、  
信、  
之、  
呼  
身、  
所、  
處、  
置、  
等、  
成、  
ト、  
己、  
ラ、  
志、  
申、  
者、  
毛、  
有、  
之、  
係、  
子

前条ノ趣意、懇々相預候如、漸相黙候  
在之、次、亦、之、付、當、地、  
指、割、  
所、  
處、  
分、  
之、  
黒、  
白、  
引、  
分、  
之、  
之、  
テ、  
必、  
ス、  
争、  
ヒ、  
生、  
シ、  
眾、  
人、  
モ、  
多、  
分、  
出、  
来、  
可、  
申、  
候









以信子の平の事  
百二号

十書

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄附

女は仍し近事大に  
正し天皇御命を  
ツク事ありしに  
成心ありしに  
故に其を

○野は高田  
凡そ野トテト  
子ニカトハ

谷礼三侯、存陳啓并、日人言上書

何人傳去、二月中旬より、天主教師ノ指揮、より、旧里方角に於  
て、其の存老老、約係り、余ハ、旅費モ甚之、且一世重多ク、何上  
出立スヘシト、思ヒ、已ニ、教師ノ如ク、辭シ、市向ニ、隠伏、勉ミ、此、  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



○先解南地ニナゲ字子ヲ神  
 戸ハ呼上セリハノハ五  
 田下シハノハ其ハ故ハ人  
 未上坂ハニハ其ハ故ハ人  
 近未黄学大ハ上ハ達  
 芥子氏廿五六人日ハ其  
 学ハ故ハ南ハ上ハ坂ハ不ハ終ハ与  
 能ハ氣ハチハ出ハ了ハ右ハ十ハ南ハ  
 六ハ日ハ下ハ下ハハハハハ

字ニ連シ入堂セシノ座ナリ。○同人諸費トシテ金十二  
 田也ハトシハ七ハ十ハ里ハ 往ハ返ハトハ割ハシハ金五田ハ 同ハ人ハノハ諸ハノハ同ハ人ハニハ近ハ未ハ日ハ來  
 若ハ心ハ大ハ、ハ惟ハ悼ハ實ハ、ハ可ハ憫ハ可ハ貴ハモハナリ。○同人ハニハ廿ハ五ハ日ハ來  
 若ハ心ハ從ハ返ハ廿ハ日ハノハ諸ハノハ申ハ台ハ也ハ。○同ハ人ハノハ同ハ人ハノハ廿ハ五ハ日ハ來  
 一天主堂内南時ノ年人八名一忠ハ方ハ也ハ。浦上ノ人南時  
 往ハノハ諸ハノハ一ハ疏ハ黄ハ鳴ハ重ハ也ハ。方ハナリハ法ハ方ハ巡ハ回ハ一ハ倉ハ和ハ浦上  
 先年巡ハ此ハ一ハ甚ハ平ハ浦上ノ人先年七州ヲ履走形ノ様實ハ濠ノ南時  
 三ハ次ハ市ハ、ハ波ハ平ハ不ハ足ハ存ハ存ハノハ人ハ一ハ松ハ二ハ節ハ浦上ノ人先年巡ハ此ハ南  
 一ハ友ハ八ハ大ハ村ハ飲ハ先ハ年ハ入ハ字ハノハ破ハりハ巡ハ此ハ一ハ葉ハ老ハイハ十ハ廿ハノハ人ハ母ハ足ハ才ハノハ諸  
 父ハニハ不ハ思ハ也ハ、ハ和ハ京ハ煙ハナリ。已上 市中ニモ南時ニ追々浸入

伊勢町ニ見某南時西四部ト惣々元ハ南地兵隊ノ由今ハ該  
 島ニ巡リテ方ナリ此人ヲ市中ノ旧慶堂ノ引込ニ仲町ニ  
 一名岸家移野黒崎ノ邊ノ由 捕瓦下ニ老婦深久和  
 者ナリ毎夜市中ノ婦人ノ傍外 魚下ノ煮賣店モ里ハ  
 築下ノ邊ニ此者ハ市中ノ入和ノ徒ノ因旋ス南時ハ市中ニ  
 七十余ノ惑者ニ也舟大ニ所隔瓦ノ日録ノ葉存ニ由  
 大崎寺村ハ天主堂一ノ処ナリ神島ニ近ク立ハノハ企ハナリ  
 教ハ方ハハハ村々一兩人死ハリハ女ハ別ハニハ也ハ方ハナリ他村ハ巡リ也方  
 天主堂教師ノ前ニ百日為力ノ盟メテ巡ル由也也  
 水方ト惣シノ生鬼ニ洗礼ヲ授ク者古来村々一人ナリ



何しも天正中よりお發由近來人多増加強ト二百人ノ為由  
 此水方ノ唱言曰 エゴテ。パウグズインニミ子。ハキリスエツピリ  
 エワスピリトサント 沢シテ某三ツノペルワーナソ以テ世ノ洗ト云  
 此水ノ謬リ凡シ昨午五月ヨリ 水改ト稱シ清打水方  
 古來謬付凡シ昨日兵有改正ニ由此水方ノ打見生シ  
 即刺々宗ニ至リ洗レノ後ニ由此見生長シテ天主堂ニ更ニ  
 家師ヲ授儀有時フソクノ稱ス由其子信心深シト又  
 真ノ洗レノ授ニ由  
 教方ニ凡三十宗ノ一人ノ受持トス 村費ノ以テ其方ノ卷フ  
 由一打ニ此回ニ其方好スルニ毎戸好々出金ニ由

別格

一 神島戸野百州

内中里ナリ近來  
 白ト争リ生シテ長カ  
 由來ニ相打昨ノ  
 多強ナリ此地ノ里ノ  
 地カ弱ナリ故ニ其  
 里ニ頼ミ小銃ノ以テ  
 カトシテニ應接スル由  
 凡シ此事未詳  
 ナラス 何レ故ニス  
 ハヤ山近ク多強ノ  
 心ナリヤ

天主堂ニ近來大疫繁ナリ僅ニ出崎ノ商人ノ令ノ借  
 由昨午止ニ法を講テ輸入シテ近來一切拒絶スル由ナリ  
 追々天主堂毎建ノ止アリテ頻ニ同ソ引ノ幕中ニ  
 其師講フラシ西ニ々々年又大就ル由也界余日遠カラ  
 ス谷口何日本ニ乱ナキヤ其師曰天主ノ少怒ニ絶シ此  
 拜年ニ時ニ必ス乱アリ谷口曰國王ノ恩ヲ忘レテモ天主ノ恩ヲ  
 忘レシヨキヤ曰國王ニモ恩アリ也天主ノ恩ニハ怒カケレ天主  
 コリ國王ノ命ニシテ國民ヲ治メシム者ナレハ恩ハアレシ  
 輕重ナ  
 キニ非ス  
 當年ニ必爾宗ニナルヘシカシ今ガ其時終ニモナリナリ



佛ノコシニ時々書きて来り候事ノ申候セリト

一 東京ハ南村坊支丹ノ信スル学者カ報申立アリ

己レ田舎ヨリモ長州人モ多ク周縁セリト云

一 エハスコツフハ時々諸港巡回セテ来ル時ハ必ス谷口ノ邊ニ

其指金ヲ紙ラシム此指金ノ紙ハモハインドルゼンヤト物ノ票ノ

一 南村堂内者師四人口カイ此人ハ大堅固ノ人ニテ夜

一時了信置し野具下ニ候事懸許セサヤフ照シタヒ也ホレ

一 甘ルモン此二人ハ尽夜内分奔走若書候ノ病人アリト来事シ

一 夜中タリトモ馳付授候由ルルルニアリ 昨年浦上人帰郷

一 佛草西ヨリ来ル由南村浦上候引候事

右



以迄近年甲辰乙未  
丙午丁未

大正十一年四月  
大隈侯爵寄贈

録  
録

小室

異宗徒戸数人算畧記

元深堀領三直村郷黒崎出津永田三村合

戸数三百二十四戸

人算千五百三十八人

同伴王嶋内大明寺村

戸数百三十九戸 内白二十九戸

人算五百三十三人

同沖嶋 戸数八十九戸 内白三十九戸 同黒五十九戸

同上嶋 戸数八十九戸 内白五十九戸 同黒三十戸

同高嶋 戸数五十九戸 内過半黒





大山村 戸教十三戸 内白三戸 同黒十戸  
 右之通戸教凡五百五十四戸悉皆除垢禪宗菩提寺  
 檀家ナリ

外

三窪村ノ内ニ于テ 眞宗 三窪村 正柿寺ノ徒

同 四戸 同 神捕 光照寺ノ徒

仲嶋 五戸 同 隆延 田成寺ノ徒

邪徒事情

長崎近郷諸嶋如支丹ノ蔓延ニ三窪村ヲ根元トス三  
 窪村旧大村領旧佐賀領大牙相接シ旧大村領旧赤松門  
 嶽禁元故臨繪ノ鄭ニ至リ邪徒脱走ニテ年々其嶋ニ逃  
 所謂居付ト稱ス看テリ書留時年々五嶋ノ邪ヲ信スル  
 皆其ノ子孫ナリ又々佐賀領ノ宗門嶽禁ナキ故ナリ  
 近傍ノ七嶋ニ移住シ高大明寺村大嶋高嶋寺今日邪  
 徒凡九ノ大伴皆三窪ノ子孫ナリ其他親類ト凡九ノ  
 多ク邪徒ナリ其故ノ邪徒ニ我見女ヲ正徒ニ嫁スル好  
 縁ニテ兩三年後已ニ夫婦契結ル見テ生る比ニ至リ



邪宗又云下ラス、山自然姑<sup>家</sup>守キカサシ、其婦見  
見ヲモ引戻シ姑<sup>家</sup>ヲ困切セシテ百計宗者入ラニト  
ヲ欲ス是等年段実ニ悪ム可キ者多シ

伴王嶋二百三十クアリ土人皆復寛信部ノ妻ヲ信  
人モ黒ナシ村中加諷シテ自死黒ハ入ル者アリ其宗ヲ燒キ  
甚人ヲ放逐スルノ約アリ大明寺ニ百二十戸皆黒ナリ  
西村迫近ニテ黒白相争フテ常日ノトナリ黒子供  
ト白子供ト相戯レ或ハ争フテアリ黒児曰ク汝ハ白  
ナニ逐ク黒ニハキ者ナリ常ニ色モ黒ハ白トハカラス  
白ハ黒トナルヲ易クト白見曰ク黒ハ所守ラズ是ハ所

立而モ出金シテ所守ノ正首掛ケテ買取皆貧乏ニ  
ナル又々トシテクニ年リ飲食ニフケル故ニ貧乏ニナル黒見  
云ノ其ノ世貧乏ニシテモアノ世富貴者トナル其ノ世モ  
アノ世モ貧乏ナリトシテクノ所馳走ニ其ノ世所馳走ナリ  
早飛ナリト云云ハ見ト云ヒ毎朝必ス唱言ヲ誦シ夜毎  
ヨリ経ヲ学ブナリ

大明寺村百二十軒内僅ニ三軒アリシテ明治六年今年  
ニ至リ其供ヨリテ長ニ願出ル趣ニ私共年来所趣意  
ヲ奉シテ常ク切支丹ニ立入不申知違々村人皆宗者ヲ改  
今日ニ至リ私共ヲ日夜困メ或ハ渡海復身ヲモ



カサス水ヲ浴ニシ井ヲ借ナス田師ニ行クモ踐踏ヲ  
妨ケ村井ノ子庶ニ私ノ子供ト遊戯セス冥ニ私村  
内ニテ孤獨ノ旅人ヨリモ困シムル故妻モ子モ幾  
度ク私ヲ尋、ナラ共ニ邪ニ入ラト云ヒ私即趣意ニ  
負テ故ヲ以テ妻子ニ申聞ケ今ニ至ル迄未入邪不任保  
私モ危死ニ近シ死後、妻子所詮獨立スルコト不能  
故ニ嘗分儀ヲ破ル、宗ニ入ラト欲ス、カ、申差圖下  
サレ度キ方申出ル方長ヲ程能ク申前共一時ノ  
姑且申分儀由ルニ其後右三軒ノ内一軒ニ遂ニ邪  
宗ニ入ル者ヲ長ニ届出ル

沖ノ嶋ニ今ノ内五ノ十ノ禪宗菩提寺檀家アリ三ノ十ノ  
右ノ宗ノ口成寺檀家アリ口成寺檀家、昨年近黒人モ  
ナキ知、昨年ヨリ昔春迄、五軒黒人内、みちトイハル婦  
アリ、夫及ヒカ見皆黒トシ婦ヲカス曰私、大村領ヨリ入  
屋ノ者先祖代々念佛ニ往生ス故、私獨、宗音聲、  
カ、先祖ノ知、生ルコト不能ナリ、其夫大、怒、ノ夜、懐、昼、ハ  
食ヲ同セス日夜共々困ル、甚シ、みちノ兄、皆、皆、白  
ナシ、此、みちノ困ラシ、見テ、其、邪、入、ラ、ル、カ、此、みち  
遂ニ入ラス今年正月ヨリ、夫、是、ヲ、逐、出、ス、親、類、共、シ、ヲ  
慰メ、みちモ、宗音聲ナラシ、離、縁、不、苦、但、五、歳、ノ、間、子

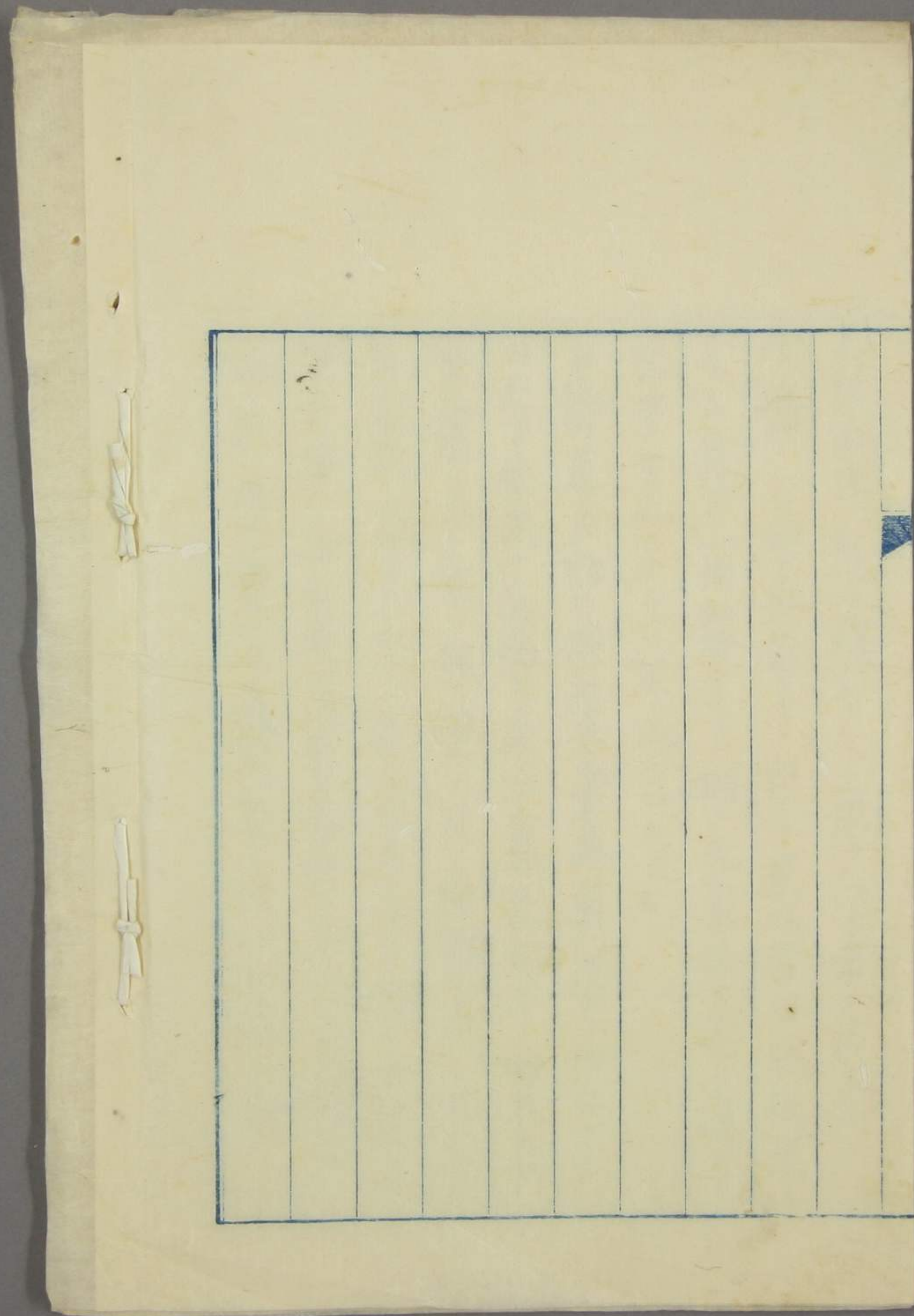


尺故三四里之船を殘存すりと流る流に棄て倍しり  
陣嶋のしほ船を元家より白り黒奴皆曰自然黒  
ナラズ我輩一同加勢せらる船を元家共々追々  
家業を止まらる黒入りと云

上ノ嶋八十戸計ノ皆禪宗甚提寺門徒下内五十戸  
白之十戸黒より近東黒白相争つ領り白云共  
嶋神社前之黒船ヲ擊つ可ラス黒白汎波ノ下  
勢ノ神社前之山守ノ船ヲ擊つ如し何卒旧ノ  
如く之と下白曰女等子生神ノ下ヲ婦ヒ大廟ヲ  
燒キ神柵ヲ宮度ニ投山寺ノ下り今是れ其ノ

神前ノ船ヲ擊つと船を元家より流る流に棄て倍しり  
陣嶋のしほ船を元家より白り黒奴皆曰自然黒  
ナラズ我輩一同加勢せらる船を元家共々追々  
家業を止まらる黒入りと云



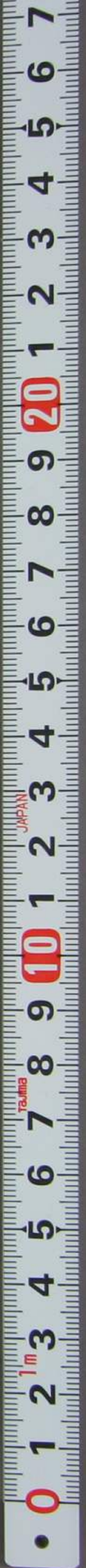




申三月  
横濱野宗門事情

壬申年三月廿五日

小栗





114  
A 4154  
7



先、言て通、懐、影、若、山、川、下、定、會

取、供、い、毎、月、初、日、惟、日、京、演、徒、集會、改、規、則、和

立、月、野、生、其、子、加、り、去、六、日、日、惟、日、出、席、其、交、先

月、亦、一、日、集、法、徒、六、人、即、之、由、為、進、形、出、者、七

其、作、生、退、多、人、跡、お、来、日、多、長、老、人、子、下、第

借、河、帝、系、多、會、中、者、乃、礼、子、下、静、園、録、高

尾、忠、良、七、執、事、役、子、監、任、一、一、申、以、女、長、老、七

下、役、子、會、中、雜、費、出、納、方、貧、民、救、助、等、第、協

大正  
十一年  
四月  
贈



周旋後、由生を就る。八月初集合し、若<sup>金</sup>試歩つ、  
指馬い多し。是れ、貯貯として、質徒政如、院諸  
雑費し備之。是<sup>親</sup>別件に定す。  
一執事役、竹尾忠良、津村吉富、都立三人し者矣。  
先月より、バカラ館内、移住す。其概、文部省より  
諸学生に試<sup>試験</sup>務、小告、自、院前、卒業し、公費を  
以て修多、其、法、海、草、は、能、令、官、費、頂  
裁は、其、其、修、の、は、防、未、異、学、し、上、子

て、教、師、と、有、る、の、望、あ、る、と、象、隨、し、其、成、象、能  
るとして、私費より従事し、力あり、之、の、一、部、に、は、引  
承、仰、り、不、快、也、也、バ、ラ、之、く、其、志、操、實、之、感、心、し、至、り  
あり、試、強、を、受、る、う、し、む、ろ、ふ、日、由、に、忍、い、當、り  
分、我、館、也、あ、る、之、我、報、費、し、事、也、即、中、進、公  
會、人、取、り、揚、一、一、高、と、し、形、制、一、く、昔、申、之、在、  
之、し、者、一、一、高、し、部、屋、後、法、所、し、隔、り、て、取、居、張  
至、し、其、寺、し、就、り、彼、寺、の、卒、志、切、れ、子、取、中、生、



或一身上成者師ハラ子依頼一師才共子後来  
し見込を立て、弘法し策師勵む方雲る也し  
玉、侍生と

一云今長光小川廉し物有る者先、与言ふ通り  
弘法し棟梁とて、後来是子弘法し策師廻し居  
る事、近口より少し、但し是之説法後引成り彼  
方より新立し臨る者不少好し、又彼か女房、  
親類上徳不真律録十日市揚村佐名向何某と云

御土出を由疾家子ハ二三年前より、老師クニシテ  
と打連れ、傍りいふ、家主少しく感され、侍邪ニ入りし  
爪情、中々なる疾あり、頻りにハラ茶沙、促し先頃  
傷あり、答、吾之交徳甚延りいふ、四廿日前正子  
徳地より、由り、生出演し為り、十川之く道  
日教師と共子上徳子ハ、思ひ、孰く、日あり  
少くして、若し事情、至一多し、佐久向と申すハ  
左方より、村中一日信後せし、家有れ、疾者又引



入すれ小連子被逢子女道城同く優くありき  
和近年し昔志あり君少く同暇あるに被地子  
暫侍通る一古家内子子供しあり其の之杯表  
として信平女道一咄一哉いふ一引立平事お叶  
ありきや杯と病生子猶ほ子預り大い吾子園り  
果し一病てい事情見同じぬ程寺同解きつ傍海  
乙忙免恨、あま、交遊て大より失し、其し新中  
百々る所る向志し者子懐く、甲の世由、世生く

一前条淡和し序、小川之く和縁打し者八王寺道  
三伊村と申交ふあつて其縁似、壬午年と申  
寸者先り来り、村中子学校不造り、僕洋急  
引立交片、師範、るもの言ふ百成、杯不候、  
及い、和利、吾一て之く、其母面白、然る、丈あり  
乙早速ノ、養策あり、園家し、あり、其法杯、  
とす、一、能令、學解、果、速す、と、人として、老、  
く、い、不、分、あり、其、老、子、身、て、第、園、子、比、類、あり、八



今我佛徳了アラスタンノ教あり、女より我  
知有し、神徳佛事し、女修徳に九の各ありて、  
一、冥の事とするに足む、女は、今、制禁、徳あり、  
是、今、より、女、修徳、に、日本、七分、画く、女、事、と、か  
り、事、女、修徳、の、如く、初、学校、校、代り、の、女、学校  
修、立て、夫、少、男、女、修、集、め、教、修、施、す、に、日、あ、る、に  
宗、教、修、徳、一、女、修、し、者、修、集、め、て、宗、教、修、徳、学  
得、せ、し、め、女、通、開、け、て、弘、法、し、初、修、踏、ま、は、た、

此、人、し、石、岡、ある、を、万、国、に、并、し、形、村、し、名、譽、女、上、  
あり、修、徳、一、義、に、お、れ、も、周、旋、ハ、ウ、女、修、に、は、  
女、修、修、徳、し、者、一、年、の、事、に、お、よ、り、弘、い、と、す、一、と、い  
つ、宗、教、の、修、徳、に、吐、し、し、交、培、集、年、大、随、修、  
し、余、り、早、速、其、宗、修、徳、勉、勵、せ、修、徳、に、修、し、内、有  
き、共、返、答、い、多、き、べ、し、と、し、陽、村、に、是、又、道、徳、弘  
る、し、諸、口、ち、れ、ハ、全、く、我、事、に、力、を、付、し、て、修、徳、に、主  
宰、し、神、の、祈、り、苦、心、死、生、に、通、り、和、し、より、彼、邊、に



年々進退相方百何卒曰州し之と歸生子位一、  
百物全七進退因丁七子は金く彼七進東公會し  
長老とあり何卒して実教存立んと置扱苦心抄法  
と心息付いかに七進或し奴、は金一、以但前条し  
事何本夏律又ハ王寺多一止、於權也生也  
為前預防し法立案存交祈新氣、拓作増  
以秀存也責つたは是法存也。

壬申三月

東京陸者果始百敬念